

地域で支える学校支援活動 〜大越地域〜

大越地域では、学校支援の活動の一環として、放課後児童クラブへの移動の見守りと朝の登校の見守りを行っています。見守りの活動を通して、ボランティアの方々や子どもたちの間に確かな「絆」が生まれており、子どもたちの安全を見守る、地域にとって欠かせない存在になっています。

「放課後児童クラブへの移動見守り」

大越行政局の2階では、毎週火曜日に「放課後児童クラブ」が開催されており、大越小学校の児童約20人が参加しています。クラブの日、参加する児童たちは、大越小学校から大越行政局までの約1キロの道のりを歩いて移動しますが、道幅が狭く、交通量も多いため、大越地域学校支援コーディネーターの佐久間和津子さんとボランティアの武田正信さんが安全に移動できるように見守ってくれています。



見守りボランティアを始めて1年半の武田さんにお話を伺いました。

◎ボランティアの武田正信さんから
コーディネーターの佐久間さんに声をかけていただき、ボランティアを始めました。見守りをする中で特に気を付けていることは、「子どもたちを傷つけないこと」です。子どもたちが転んでけがをする可能性もあるので、常に救護用品を持ち歩いており、すぐに対応できるようにしています。また、注意をするときもできるだけ強い口調は使わないように心がけています。

見守りの活動を続ける中で、子どもたちの変化に触れることがありました。始めた頃はあまり話すことはありませんでしたが、何度も会うにつれて、子どもたちと少しずつ仲が深まったように感じます。今では、「私のことを「先生」や「隊長」と呼んでくれて、子どもたちとの交流が原動力になっていきます。子どもたちを安全に送り届けるのが自分の役目ではありますが、見守りをしている子どもたちと同年代の孫がいる私にとって、孫を見ているようでこちらが元気をもらっています。これからは子どもたちを安

全に送り届けられるよう見守ってきたいと思っています。



孫の成長を見るようなまなざしで子どもたちの安全を見守るボランティアの武田さんと佐久間さん

「朝の登校の見守り」

毎朝の登校を見守るボランティアの方々もいます。見守りボランティアの真壁孝精さんは、児童たちの通学時間の約30分、大越小学校前の道に立ち、子どもたちの登校を見守っています。ボランティアの方々の見守りのおかげで、子どもたちは毎日、安全に登下校することができます。



子どもたちの毎日の登校を見守る真壁さん

●学校支援とは？
学習支援活動や登下校の見守りなど、地域全体で子どもたちを支え、見守っています。学校教育の充実と地域の活性化を図るものです。

たむら市民病院から Tamura Municipal Hospital



「笑いヨガ」～笑いの力で更に元気に～

たむら市民病院では、介護保険で要支援1～2と認定された方や総合事業対象者へ通所サービスを行っており、2月から新たに笑いの健康体操として「笑いヨガ」を取り入れた介護予防に取り組んでいます。

笑いヨガとは…

笑いヨガとは、「笑い」を呼吸法と見立て、誰でもできる簡単な健康体操にしたものです。普段は冗談やユーモア等で笑いますが、体操として笑う動作を行います。面白くて笑っても、笑う動作の体操でも、笑いの健康効果が得られます。
基本動作は ①手拍子と掛け声 ②深呼吸 ③元気キーワード です。
笑いとお腹呼吸を組み合わせることで、たっぷり新鮮な酸素を体内に送り込むことができます。

利用者の皆さんからは、「大きな声ができるようになった!」「普段から笑顔になった!」との声もいただいています。ぜひ、大いに笑って肺の中に溜まっている空気を吐き出し、新鮮な酸素を取り入れて、健康を促進していきましょう。

関 たむら市民病院 ☎82-1117



広告欄 Advertisement

有料広告募集中

問い合わせ…総務部 総務課
(☎0247-81-2117) へ

エゴマ搾油北部作業所 - 5月の稼働日 -

- 稼働日…28日(日)
- 受付 午前8時30分～11時30分
- 場所 北部作業所(船引町新館)
- 問い合わせ 産業部 農林課 ☎81-2511